

## 「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴†

今年度第1回目のTOMの発刊です。実は連休明けには編集作業を終えることができたのですが、何かと時間が取れず、この時期になってしまいました。次号TOM16はシンポジウム特集号なのですが、現時点(平成18年8月)では、単独で発刊できるか、一般論文と込みで発刊できるか、まだ判断がつきません。さらにその次のTOM17も年内編集完了する予定です。何だか、1年前のTOM13の前書きと同じことを書いているような気がします。今年度は年4回の発刊に挑戦したいと思います。何せこのところMPS/TOMの講演/論文投稿が多くて、毎回のようTOM編集委員は牛馬のごとく働かされております。まあ、結構なことなのですが、と、この部分は(も)1年前のTOM13からのパクリなのですが、あまりにTOM編集委員の作業量が多かったため、この春に「TOM編集委員増徴計画」を実施し、編集委員数をほぼ倍増させました。でも、考えてみれば、編集委員数を倍増しても、編集委員長を2名にしなければ、僕の作業量は変わらないのでした。

今年度から新たに編集委員になっていただいた方は下記のとおりです。

中島智晴(大阪府立大学)  
 吉川大弘(名古屋大学)  
 池田大輔(九州大学)  
 高野 茂(九州大学)  
 石原靖哲(大阪大学)  
 樋口昌宏(近畿大学)  
 安藤 晋(横浜国立大学)  
 石崎 俊(慶應義塾大学)  
 鈴木智也(同志社大学)  
 品野勇治(東京農工大学)  
 滝沢泰久(ATR)  
 北上 始(広島市立大学)  
 本多中二(電気通信大学)  
 栗原正仁(北海道大学)  
 関嶋政和(産業技術総合研究所)  
 上田修功(NTT)

(以上、敬称略)

ほかにも現在依頼中の方が数名います。

よく今まで少ない人数でTOM編集委員会が運営されていたものだといまさらながらに感心しているのですが、実際、どの程度TOMへの投稿が増えてきたのか、手持ちの資料で調べてみたところ、2003年度はMPS44(5), MPS46(11), MPS47(9), MPS48(4), 2004年度はMPS49(3), MPS51(8), MPS52(17), MPS53(11), 2005年度はMPS54(7), MPS56(13), MPS57(8), MPS58(11), そして2006年度MPS59(14), MPS61(18)の投稿件数(括弧内)でした。やはり編集委員増徴計画は正解でした。

TOM15では、2005年3月のMPS53(白浜温泉)から1本、2004年5月のMPS54(名古屋)から4本、2005年9月のMPS56(京都)から5本、2005年12月のMPS57(東京)から3本、2004年度研究会非連動投稿から2本のオリジナル論文と、MPS54から1本、MPS56から2本の事例紹介論文の合計18編を掲載しています。TOM15に関するMPS53-57の研究会連動投稿と2005年度研究会非連動投稿の採録論文数/投稿論文数は1/1, 5/7, 7/13, 3/6, 2/4で、採択率は58%となります。

今号の採録論文18編の担当編集委員は、北栄 輔、木下敬介、笹倉万里子、佐藤彰洋、庄野 逸、高木英行、高階知巳、高田司郎、古谷博史、棟朝雅晴、古瀬慶博、山崎浩一となっています。

配布部数につきましては、これまでどおり1,000部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、MPS研究会および論文誌TOMに関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

† 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長  
 奈良女子大学